

SPORTS LEGACY Report 2019

東京マラソン財団 「スポーツレガシー事業」のご報告



Innovation & Inclusion

未来に遺すスポーツを、今つくる。

近年、スポーツへの期待が高まる中、スポーツそのものが持つチカラにも関心が高まっています。

競技スポーツやレクリエーションスポーツといった枠組みを問わず、

「スポーツ」が起点となって、21世紀の東京そして日本に「明るい未来へとつながるレガシー」を遺していきたい。

そんな想いから「スポーツレガシー事業」は始まりました。「スポーツが後世に遺せるものは何か」について語り合い実践する場を提供することで、

スポーツを軸とした新しいライフスタイルを享受できる社会の実現と継承を目指します。

スポーツレガシー事業 公式ウェブサイト ▶ <https://www.sportslegacy.jp>

ご寄付いただいたみなさまより



世界を東京をもっと素晴らしい街にしたい、ランニングを通して実現したいです。

54歳 男性



オヤジの限界を体現し、我が子三姉妹に伝えたい。

我が子三姉妹の将来にとっても、

このチャリティ参加が意味あるものだと思っています。

44歳 男性



先月6月から仙台に住み始めて、復興支援ができればと思い、チャリティ参加いたします。東京マラソンは初めてですが、頑張りたいと思います。

48歳 男性



みなさまからの沢山の想いを、スポーツレガシー事業の活動を通じて、

「スポーツの夢・広がり・力・礎」を様々な世代に繋げていきたい!と思います。

応援よろしくお願い致します!

43歳 女性

スポーツレガシー事業運営委員会のご紹介



委員長

早野 忠昭 Tadaaki Hayano

東京マラソン財団事業担当局長／東京マラソンレースディレクター

東京マラソンチャリティで集まった人々の想いを基盤としながら、「みんなの手で創り出し、つないでいくレガシー」というコンセプトを掲げ、「スポーツが後世に遺すもの」つまりスポーツの「レガシー」の創造と継承を、東京マラソンのミッションとして取り組んでいます。

東京マラソンらしく、革新的でありながら誰もが参加できるよう、“Innovation & Inclusion”を目指していきたいと思います。私たちの生活が豊かで幸せなものになったと実感できるように、ぜひスポーツレガシー事業を応援してください。

委員



為末 大 Dai Tamesue

元プロ陸上選手

平野 了 Ryo Hirano

日本陸上競技連盟 強化普及部 課長

河野 和久 Kazuhisa Kouno

東京都オリンピック・パラリンピック準備局
スポーツ推進部調整課長

チャリティ・アンバサダーのご紹介



スポーツレガシー事業への寄付を呼びかける「チャリティ・アンバサダー」として、以下の4名が年間を通して積極的に活動を行っています。

写真後列右から

■ **M 高史 さん**
(ものまねアスリート芸人)

■ **中村 優 さん**
(タレント)

■ **大島 めぐみ さん**
(女子マラソン元日本代表)

■ **鹿野 淳 さん**
(音楽ジャーナリスト)

写真前列右から

■ **伊藤 静夫**
(東京マラソン財団理事長)

■ **早野 忠昭**
(東京マラソン財団事業担当局長／
東京マラソンレースディレクター)

COLUMN／チャリティ・アンバサダー 鹿野 淳さんより

東京マラソンEXPO 2019において、スポーツレガシー事業のブース活動で最も印象的だったのは、「どんな活動を支援したいですか?」「どんなスポーツを支援したいですか?」というアンケートに対する参加者の向かい方でした。僕は音楽業界にいる人間で、割とチャリティに対して音楽シーンは先進的な役割を果たしてきたと思っています。例えば話題の映画「ボヘミアン・ラプソディ」での重要な場面であるクイーンのライブシーンがありますが、あれは1984年のアフリカの貧困を救うためのチャリティライブ「LIVE AID」のものです。そうやってチャリティに向かい合う姿勢を音楽やカルチャーは率先して見せたり支えていたものの、特に日本人はそのチャリティ自体を「偽善」とみなしてそっぽを向く時期が長かったと思うのです。その姿勢が全面的に取れたわけではありません。しかし、徐々に「助け合う」「支え合う」「自分が持っている余裕をシェアする」という気持ちに対して素直になっているんじゃないかな?という雰囲気を感じました。前述したアンケートに対しても、とても悩んでくれるんです。その悩みとはただただどれにしようか悩むのではなく、明らかに「この自分の一票には役割と責任があるんだ」という意識を持って悩んでいるようでした。実際にアンケートに答えてくれる方と何度も話す機会があったのですが、「子供を支える、被災地を支える、外国の恵まれない人たち

を支える、街での環境を支える。これ、全部大事なことで、どれか一つを支えたいとか、重要過ぎて責任を感じるし重いですね」というようなことを言う方が本当に多かったです。僕はそのような考え方がさらに広まったり深くなっていることを証明する場所としてチャリティブースがあったことを、本当によかったと思いました。年々意義が増しているプロジェクトになっていることに喜びを感じました。

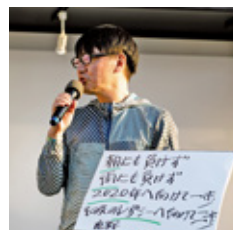
今年もチャリティランナーとして外国からやってきた方は多かったのですが、彼らにとっての東京マラソンのエンターテインメント性、つまりは世界に名だたる街を走れる喜びというイメージもさらに強くなっていることを、会話をしている中で強く感じました。本当に年々外国人ランナーが増えているし、その付き添いの方たちも増えているし、今年のEXPOブースは、ダイバーシティに隣接しているので、何をやっているの?と何う人も多かったんじゃないかと思います。そうすると、もっと日本や東京を意識させるパフォーマンスや上映などがあっていいのかな?とは思いました。

そして、本番「東京マラソン2019」開催当日、走っていて強く思ったことが何度もありました。それは「ボランティアに対するボランティア」という人たち

が沿道にいたことです。

これは雨が降ったからというの大きいのですが、具体的に申し上げると、沿道でランナーをサポートしているボランティアの方に後ろから傘をさしたり、そのボランティアの人と並んで応援したり、ゴミを拾っているボランティアではない人という姿を数回見かけました。個人的にはその光景を確認したことが一番、やる気を起こさせてくれました。

走ることから始まり、それを支える人が生まれ、その支える人をさらに支える人が生まれるというのは、幸福の連鎖そのものだと思います。あーいう気持ちにいつだって人はなれるわけじゃないけど、こういう特別な機会があると、自分の中にそういう気持ちがあることに気づかせてくれるじゃないですか?その事自体がとても重要だし、そういう機会になれる東京マラソンは凄いなと思った次第です。



夢

強化育成

若いアスリート強化育成する
「ダイヤモンドアスリートプログラム」

主催：公益財団法人日本陸上競技連盟

2020年の東京オリンピック、また、その後の国際競技会に向けて特に活躍が期待されるタレント(才能)を持った競技者(原石)の強化育成を、2015年11月以降サポートしています。

2018-2019 認定アスリート

※氏名(出身都道府県・所属)、種目を掲載しています。写真：©フォート・キシモト



「ダイヤモンドアスリート」第5期(2018-2019)認定式

スター選手育成に向けて主に5つの取り組みを行いました。

1 リーダーシッププログラム

2018年度リーダーシッププログラム
【監修：為末 大】

競技力向上だけでなく、豊かな人間性を持つ国際育成のための個を重視した育成プログラムの中で、リーダーシップ教育として行っています。2018年度は一般社団法人アスリートソサエティ、アスリート委員会(第2回より)と協同・連携し、多方面から講師を招いて計4回の研修会を実施しました。

第1回
2018年
11月28日(水)●トークライブ「国際的なアスリートを目指すには」
ゲストスピーカー：太田 雄貴さん(公益社団法人日本フェンシング協会会長)
進行：為末 大さん第2回
2019年
1月11日(金)●講義「君はプロ(professional)ですか？」
講師：西谷 尚徳さん(元プロ野球選手)
●アスリート委員会対話「アスリートとお金」
講師：横田 真人さん(元陸上選手・800m)第3回
2019年
1月14日(月・祝)●講義「自身の経験を生かしたメッセージ」
講師：松田 悠介さん(Teach for Japan代表)
●アスリート委員会対話「現役時代にしておけば良かったこと」
講師：加納 由理さん(元陸上選手・マラソン)第4回
2019年
3月4日(月)●講義「言葉のちから」
特別ゲスト：萩本 欽一さん(タレント)

「ダイヤモンドアスリート」修了生(順不同) 橋岡 優輝<走幅跳>、江島 雅紀<棒高跳>、池川 博史<やり投>、山下 潤<100m、200m>、大塚 渉<100m、200m>、サニブラウン アブデルハキーム<100m、200m>、北口 榛花<やり投>、北川 貴理<400m>、岩本 武<400m、障害>、平松 祐司<走高跳>、佐久間 湊大<走幅跳>

2 語学研修

海外遠征をより意義のある、収穫の多いものとするため、海外遠征の前に語学研修(通学・オンライン)を必ず実施。現地でのコミュニケーションに対する準備をある程度整えたうえで遠征に臨むことができました。

3 栄養サポート

個々人への栄養チェックや指導に加え、ダイヤモンドアスリートが所属する学校での栄養講習も実施。ダイヤモンドアスリートを中心に、取り組みを「個から地域」へと発展させました。

4 海外遠征・合宿サポート

2018年度(2018年4月～2019年3月)、のべ12名のダイヤモンドアスリート及び修了生をアメリカ合衆国・オーストラリア・シンガポールなどでの海外遠征や合宿へと派遣しました。

5 国内遠征サポート

国内で、各種目における専門コーチのもとへダイヤモンドアスリートを派遣し、トレーニングを行うためのサポートです。2018年度は4名がこのサポートを利用しました。

ダイヤモンドアスリートプログラム・サポーター



謝辞

ダイヤモンドアスリートは高校生や大学1・2年生を中心とした若い選手たちですが、このプログラムに参加していることを誇りとし、積極的に研修等に取り組んでいます。より多くのダイヤモンドアスリートが世界規模の競技会で活躍できるよう、これからもサポートを充実させていきますので、引き続きのご支援をお願い致します。

北口榛花選手(日本大学)をはじめ、ダイヤモンドアスリート修了生も目覚ましい活躍を遂げています



3つの事業が実現しました。 ※運営費の一部にスポーツレガシー事業寄付金を充当しました。

1 第47回全日本実業団
ハーフマラソン大会

開催日：2019年2月10日(日)

場所：山口県

参加者：男子ハーフ 133名
女子ハーフ 41名
女子10km 32名

結果：

男子ハーフ

優勝 AMOS KURGAT (中電工) 1:01:06
2位 PAUL KUIRA (コニカミノルタ) 1:01:32
3位 大石 港与 (トヨタ自動車) 1:01:33

女子ハーフ

優勝 佐藤 早也伽 (積水化学) 1:09:27
2位 矢野 菜理 (キャノン九州) 1:09:53
3位 萩原 歩美 (豊田自動織機) 1:10:16

2 実業団マラソン強化合宿(2回)

※実業団連合強化委員会の推薦登録競技者による精鋭の選抜合宿

●男子マラソン強化合宿(夏)

実施期間：2018年7月22日(日)～31日(火)

場 所：北海道釧路市

参加者：選手・スタッフ(計14名)

●男子マラソン強化合宿(冬)

2019年1月7日(月)～16日(水)

場 所：鹿児島県奄美市

参加者：選手・スタッフ(計24名)



謝辞

みなさまからのご支援が、マラソン日本記録の更新(EXCEED)にチャレンジする選手たちを強化・育成し、日本陸上競技界を
発展させる大きな力となっております。今後とも世界の舞台で活躍するマラソン選手育成のために、さまざまな取り組みを実施
していきますので、スポーツレガシー事業を通じたご支援・ご協力をお願い申し上げます。

3 海外遠征(4大会・11名)

※2017-2018 シーズンの連合主催および主要マラソン、ハーフマラソンにおいて優秀な成績を収めた競技者を強化委員会の推薦を受け派遣

●シカゴマラソン 開催日：2018年10月17日(水)

結果：

8位 藤本 拓 (トヨタ自動車) 2:07:57
12位 鈴木 洋平 (愛三工業) 2:12:18

●サンディエゴハーフマラソン 開催日：2018年6月3日(日)

結果：

8位 早川 翼 (トヨタ自動車) 1:03:57
9位 押川 裕貴 (トヨタ自動車九州) 1:04:16
14位 田中 秀幸 (トヨタ自動車) 1:05:15

●ゴールドコーストハーフマラソン 開催日：2018年7月1日(日)

結果：

4位 松田 安奈 (京セラ) 1:10:52
6位 林田 みさき (豊田自動織機) 1:12:41
7位 藤田 理恵 (京セラ) 1:13:59

●グレートノースハーフマラソン 開催日：2018年9月9日(日)

結果：

男子12位 高橋 尚弥 (安川電機) 1:05:41
女子 5位 堀 優花 (パナソニック) 1:11:14

昭和記念公園に3つのランニングコースを開設しました。

2019年1月26日(土)に園内でウォーキング・ランニングができる「水のコース(2.5km)」と「広場のコース(3.9km)」の2コースを開設しました。続いて3月31日(日)に「森のコース(5.6km)」の開設と、移動距離、ペース、消費カロリーなどの計測・記録ができるRFIDを使用した自動計測機システムの利用を各コースで開始しました。



▲コース内には自動計測器に加え、
目印となる看板や路面矢印サインも設置。

本格的な始動日となった3月31日には”思いっきりからだを動かそう”をコンセプトに園内で「Parkfitness Day2019」を開催。できたばかりのコースを活用し、誰でも気軽に楽しめるフィットネスや自動計測システムを使ったランニングの体験会を実施しました。

謝辞

ついに「いつでも正確な記録計測ができるコース」が完成しました。仲間とともにウォーキング・ランニングを楽しむ場所として、ぜひご利用ください。今後も、公園が「医療費の増大など、社会的課題の解決へとつながる健康拠点」として多くの方に活用されていくことを目指し、本事業を発展させていきます。

「Parkfitness Day2019」で
開催されたプログラム

- ・「サブ4」目標ランナーのための12km走
- ・マラソン完走教室(講師：大島 めぐみさん)
- ・バランスボール・ヨガ
- ・親子運動遊び
- ・ノルディックウォーキング教室
- ・体組成測定会
- ・スポーツマッサージ



子どもたちに運動の魅力を伝える2つの取り組みを行いました。

1 小学校と連携した継続的な指導

東京マラソンのコース沿道にある千代田区立九段小学校・千代田区立番町小学校の2校で各6回にわたり特別授業を行いました。

第1回 2018年 9月27日（木）	講師：徳田 由美子さん（テーマ①：基本の運動） 小林 敬和さん、森 健一さん （ジャンプ運動能力測定①）
第2回 2018年 10月25日（木）	講師：君野 貴弘さん（テーマ②：跳ぶ）
第3回 2018年 11月22日（木）	講師：田代 章さん（テーマ③：投げる） 小林 敬和さん、君野 貴弘さん （ジャンプ運動能力測定②）
第4回 2018年 12月13日（木）	講師：大森 盛一さん（テーマ④：速く走る）
第5回 2019年 1月24日（木）	講師：大島 めぐみさん（テーマ⑤：長く走る） 小林 敬和さん
第6回 2019年 2月14日（木）	講師：小林 敬和さん、森 健一さん、鈴木 翔子さん （ジャンプ運動能力測定③） 大島 めぐみさん、徳田 由美子さん（ミニ東京マラソン）



※ミニ東京マラソン…東京マラソンのコンセプト「走る喜び、支える誇り、応援する楽しさ」に基づき、スポーツをする人（ランナー役）・支える人（大会の審判やボランティア役）・観る人（沿道の応援役）の3グループに分かれ、交代しながらそれぞれの役割を体験するプログラム

2 キッズアスレティックスフェスティバル

2018年11月4日（日）、キッズアスレティックスの普及とスポーツレガシー事業の周知を目的に、東京都立砧公園（世田谷区）にて一般参加者に向けた運動プログラムの提供を行いました。キッズアスレティックス6種目（ラダースプリント／クロスホッピング／シャトルハードル／ターゲットスロー／トリプルジャンピング／ロディ運動）を自由に体験できるブースを設置しました。同時に「かけっこ教室」も開催し、トップスプリンターが速く走るためのコツを小学生の子どもたちに直接伝授しました。



謝辞

継続的な指導を行った2校からは、「毎回異なるテーマで、児童たちが積極的に取り組めた」「元トップアスリートの指導は今後の授業の参考になった」「こうした機会が毎年でも欲しい」など、多数の好意的な意見をいただきました。この取り組みが単なるイベントで終わることのないよう、指導・運営のさらなる質の向上を図っていきます。

車いす陸上普及を目指して4つの取り組みを行いました。

教室に参加した方に対しては、レーサー（競技用車いす）の貸出や練習参加機会の提供を行うことを通じて、実際に車いす陸上を始め、東京マラソン車いすレースなどの大会に参加できるようにサポートしました。また、それを通じてスポーツを楽しむ障害をもった方々のコミュニティ作りも図っています。

1 車いす陸上体験教室

2018年4月～10月にかけて計6回、江戸川区陸上競技場に開催しました。

2 東京マラソン2019ファミリーラン チャレンジ練習会

2019年1月20日（日）、有明シンボルプロムナード公園内で「東京マラソン2019ファミリーラン」に向けて、同じコースで約10名が車いすマラソンを体験しました。

3 大会出場サポート

- 2018年10月27日（土）東京トライアルハーフマラソン「チャレンジ車いす3kmレース」
 - 2019年3月2日（土）東京マラソン2019ファミリーラン
- 上記2大会において、車いすマラソンの参加者への出場サポートおよびレーサーの貸出を実施しました。

4 東京マラソン財団スポーツレガシー賞創設

2018年度に東京マラソン財団スポーツレガシー事業に開催した大会や教室、そのほかの大会に数多く出場するなどして、最も健闘した選手を讃える「東京マラソン財団スポーツレガシー賞」を創設しました。受賞者には個人に合わせた製作されたレーサーを貸与。2018年度は小学6年生の中村来夢さんが受賞しました。



謝辞

この事業を、障がい者スポーツへの理解促進と車いすマラソンのファン増加、そして2020年の東京パラリンピックを盛り上げていくことにもつながりたいと考えています。車いすに乗っている方はもちろん、乗っていない方にも車いす陸上に興味を持ってもらい、競技として車いす陸上を続けていける環境づくりをこれからもサポートしていきます。



キッズ&ファミリンピック (車いすスポーツ交流イベント)

主催：公益社団法人東京都障害者スポーツ協会

車いすスポーツの体験・交流イベントを通して障害者スポーツへの参加者を増やすと共に理解・共感を深めることをサポートします。

計6回の車いすスポーツの体験・交流イベントを開催しました。

障害を持つ子どものうち、特に普段スポーツに接点がありません子どもたち(主に小学生以下)およびその家族を対象として、実際にスポーツを楽しむ機会を提供。スポーツへの関心を喚起するとともに、スポーツを通じて交流を図り、ともに楽しむ仲間づくりをサポートしました。

2018年度実施イベント

2018年 8月4日(土)	2018キッズ&ファミリンピックin新潟／ 第7回「2018キッズ・ジュニアふれ愛カップ」 会場：新潟ふれ愛プラザ 体育館 参加チーム数：9チーム(56人)	2018年 11月23日(金・祝)	2018キッズ&ファミリンピックin茨城／ ツインバスケット茨城ねばねばカップ 会場：茨城県立医療大学 体育館 参加チーム数：8チーム(64人)
2018年 9月16日(日)	2018関東車いすツインバスケットボールトーナメント大会 2018キッズ&ファミリンピック紅白戦 ※大会中にデモンストレーションとして参加 会場：横浜ラポール 体育館 参加チーム数：2チーム(30人)	2019年 1月6日(日)	2018キッズ&ファミリンピックin草加／ 第3回そうかフレンズ・ツインバスケットフェスタ 会場：草加市スポーツ健康都市記念 体育館 参加チーム数：8チーム(76人)
2018年 10月28日(日)	2018キッズ&ファミリンピックin東京／ 2018バスケットボールフェスティバルinTOKYO 会場：東京都障害者総合スポーツセンター 体育館 参加チーム数：8チーム(73人)	2019年 3月24日(日)	2018キッズ&ファミリンピックin荒川 会場：公立学校法人首都大学東京荒川キャンパス 体育館 参加チーム数：8チーム(109人)



謝辞

キッズ&ファミリンピックは小さな子どもや障害の重い子どもも車いすバスケットボールを楽しめるイベントとして開催しました。全6回のイベントを全国各地で開催したことで、障害のある子どもたちが学校や地域の友達を誘って参加してくれる姿も見られ、スポーツを通じた交流の場・ともに楽しむ仲間づくりの場を提供することができました。



キッズアスレティックス × とうほくキャラバン

主催：日本キッズアスレティックス協会(一般社団法人キッズアスレティックス・ジャパン)

被災地の小学校でキッズアスレティックスやミニ東京マラソンの体験プログラムを実施しました。

これまで東京都内小学校で実施していた「キッズアスレティックス」の特別授業を被災地三県(岩手県・宮城県・福島県)でも実施しました。2018年度は各県1校ずつでの試験的な導入となりましたが、今後はさらに実施校を拡大し、この取り組みの定着を図ります。

2018年度実施校

- ① 2018年9月10日(月)
岩手県宮古市立老第一小学校
- ② 2018年9月11日(火)
宮城県登米市立佐沼小学校
- ③ 2018年9月14日(金)
福島県南相馬市立原町第三小学校



謝辞

児童を取り巻く、指導者や保護者の切実な問題や想いを現地で見聞しました。この年代の運動経験がフィジカルリテラシー(身体素養)の向上に及ぼす効果や、適切な運動形態と運動量の検討など研究課題はありますが、まずは継続して復興支援を行っていくべく、今後とも皆様のご寄付やご関心をいただけるよう努めてまいります。

「東北をスポーツで応援していきたい」というランナーの皆さん、ご支援よろしくお願い申し上げます。

寄付実績(2011～2019大会)

東京マラソン財団 スポーツレガシー事業 スポーツを軸とした新しいライフスタイル を享受できる社会の実現と継承	2015大会		2016大会		2017大会		2018大会		2019大会		
	304件		291件		274件		412件		1	415件	58,137,406円
	20,435,059円		29,710,312円		30,237,470円		41,823,708円		2	169件	14,018,000円
東日本大震災復興支援事業 被災地の育英事業 いわての学び希望基金、東日本大震災 みやぎこども育英基金、東日本大震災 ふくしまこども寄附金へ分配	2011大会	2012大会	2013大会	2014大会	2015大会	2016大会	2017大会	2018大会	3	301件	29,542,000円
	—	—	750件	1,222件	694件	680件	300件	454件	計	885件	101,697,406円
	6,500,000円	93,505,634円	75,192,098円	104,136,112円	62,634,200円	50,941,000円	22,131,000円	41,160,000円	累計	6,266件	680,103,999円

※2011大会(2011年度)、2012大会(2012年度)、2013大会(2013年度)の寄付金については、被災地3県の育英事業以外の使途も含まれます。

スポーツレガシーの輪を広げるため、 寄付金事業以外にも 東京マラソン財団独自の活動を進めています。

スポーツレガシー事業チャリティ・アンバサダーである鹿野淳さんに、中央区立泰明小学校・幼稚園で開催された「ミニ東京マラソン」および「泰明マラソン」での子どもたちの様子をレポートしていただきました。

「ミニ東京マラソン」とその先にあるもの

銀座のど真ん中は数寄屋橋にある、日本有数の都市型公立学校「中央区立泰明小学校・幼稚園」。

この地にて子供達に「走る喜び、それを支える喜び、そして応援する楽しみ」を楽しみながら体験してもらおうと、2019年3月、「ミニ東京マラソン」が開催されました。

そもそもミニ東京マラソンとは何か？それは小学校のグラウンドを使用して、マラソンにまつわる色々なことを体験してもらう試みのことなのです。

マラソンは今、空前のブームになっていますが、何故、今年の東京マラソンもあれだけの雨模様だったにもかかわらず、沿道を沢山の方々が埋めたのか？何故、大会のボランティアにあれだけの応募が成されるのか？それらはマラソンの中に感動、ストーリー、光と影、そして愛情があるからだと思います。一度でも大会を走ってみるとわかるのですが、日常生活の中では考え難い、これだけの長い距離を走ると、どうしても何かにすがったり、助けを求める気持ちが生まれるのですが、マラソンは沿道の方々はその気持ちに最高の視線や鼓舞する掛け声で答えてくれます。沿道に走らされたという言葉をよく聞きますが、あれは綺麗事でもなんでもなく、本当に沿道があのとてつもない距離を「走らせてくれる」のです。給水所のスタッフや沿道のセキュリティを果たしてくれるスタッフの方々もそう。自分が支えられて走ったり、もしくは自分が支える力を求めたことがあるからこそ、多くのスタッフが献身的にランナーを守ってくれます。もしかしら、別に立っていればいいだけの仕事かもしれません。ただ殆どのスタッフは何万人ものランナーに対してずっと声をかけ続け、そして両手が痛くなるほどの拍手を惜しまないのです。

そんな走る喜び（＝ランナー）、それを支える誇り（＝給水所などのボランティア）、そして応援する楽しみ（＝沿道応援）をすべて体験してもらおうというのが、この「ミニ東京マラソン」という試みです。ちなみに3月6日当日は、大島めぐみさんを中心に徳田由美子さん、君野貴弘さん、ハニカット陽子さんなど、豪華な元アスリート講師と共に、キッズアスレティックスのスタッフ、そして芸人でありながら子供達に楽しみながら体を動かすことを教える活動などでも有名なM高史さんなど、沢山のスタッフが子供たちにミニ東京マラソンを楽しんでもらおうと駆けつけ、積極的に触れ合っていました。

この試みは先ほども申し上げました通り、グラウンドの中で行われます。大都会の中心、というか日本の繁華街の象徴たる銀座のど真ん中の学校の校庭が大きいはずもなく、とてもコンパクトにまとまっているのですが、その中に円形のグラウンドを作り、「ランナーチーム」と「ボランティアチーム」と「応援チーム」に分かれて、それぞれをみんなが全部体験出来るようにする試みです。そしてそのそれぞれの役割、大切さ、何よりも楽しさを味わってもらべく、陸上経験者である多くのスタッフが笑顔で子供達をリードしてゆく姿が、とても印象的な1日でした。ある意味「走り合う」というのは、世代や言語を超えた最少限度の道具しか必要のない「裸のコミュニケーション」が計れるものだと思うのですが、子供たちと大人たちが距離感の近いやり取りをしなが走り合ったり応援し合ったりしている、そのこと自体が彼らの将来になんらか

の光を灯すことになるんじゃないかな？と笑顔あふれる光景を見ながら思いました。

朝から昼過ぎまで行われたミニ東京マラソン。最初は小学校3、4年生が、その後は小学校1、2年生が。お昼には幼稚園のゆり組とうめ組が。そして最後に小学校5、6年生という風に、分かれて体験してもらいました。それぞれが3チームに分かれ、例えば最初に「ランナー」として校庭を周回しながら走った児童たちが、次は紙コップに運動会で投げる赤白の球を詰めた「給水」をランナーに渡すボランティアになり、その後はコースに沿って旗を振ったり声援を送る応援隊として奮闘するといった風に、全部をみんなが体験しました。

興味深かったのは、年齢が若ければ若いほど、その全部の行為を遊びとして受け取ること。そして年齢が上がることに、それがどういう意味なのかを知りたがったり、最初は恥ずかしがったりしながら、でも努力して上手くやろうとしたり奮闘していたこと。幼稚園から小学校の8年間という掛け替えのない年齢層の子供たちが見せてくれたのは、それぞれの前向きな興味そのもので、それをミニ東京マラソンというシステムは見事に汲み取っていました。講師となるスタッフも、給水をする子供達に「こうやってコップの下を支えてランナーに渡すと、水がこぼれ難いし取りやすいんだよ」とか、大人やプロのアスリートでも知りたがる知識を自然と子供達に伝授し、それを頑張ってるみんなが実践するという、ただのなにに風だけではなく本格的なアドバイスが随所に混ざっていました。その結果、本格的なランにまつわる勉強会になっているという、笑顔と共に多くのことを学び遊びに楽しみ合う会になりました。

「ミニ東京マラソン」を経た3日後の土曜日、小学校と銀座の街が一体となって取組んでいる恒例イベント「泰明マラソン」が実施されました。これはミニ東京マラソンのように校内を走るだけではなく、警察のサポートなども借りながら「みゆき通り」「外堀通り」「コリド通り」などを経た上で再び構内に帰って来るといって1周約1kmコースをみんなで走り合う、銀座を股にかけた都市型ランニング大会です。東京マラソンの30km地点としての名物交差点でもある銀座四丁目にもほど近い場所で、小学生が3つの学年に分かれて走り合う大会。今回は大島めぐみさん、徳田由美子さん、君野貴弘さんと共に、なんと元浦和レッズ&日本代表の鈴木啓太さんまでが駆けつけてくれ、子供たちと一緒に並走しながらエールを送り続ける熱い大会となりました。

朝早くからたくさんの父母の方々によるボランティアが集まり、ランニング動線の確認や今回の大会の意義などの説明を学校の先生から受けていました。そもそもこの大会の意義は・・・

- ・自分の体力に関心を持ち、その向上に取り組む姿勢を育てる。
- ・ねばり強くやり通す信条や態度を育てる。
- ・健康維持、体力の向上を図る。

という3つのものでした。ネットなどの普及で世の中のことを確認することは随分と楽な時代になりましたが、だからこそ自分のことが見えにくくなっているかもしれない。そんな時代の中で東京の街の空気や風と一緒にになりながら、自分の力を振り絞った中で何が見えて、何を知れるのか？そんな貴重な機会があることをたく



さんのご両親の方々も喜んでいたので、ボランティアが集まった方々以外にも、学校の入り口にたくさんの応援をされる大人の方々が集まり、大盛況の中で泰明マラソン大会は始まりました。

まずは小学校3、4年の中学年による1000m走。照れている児童もいたり、謙遜しながら走る児童もいたり、ただひたすらがみなひとむきにゴールを目指す姿が印象的なランでした。この年代は一生懸命頑張るということの中に、周りからの自分の見え方を意識するという自我のようなものが混ざり、とても複雑な感情が芽生えてゆく、ある意味で思春期の葛藤に目覚め始める頃だと思えるのですが、その葛藤と闘うように走り続ける児童の姿に、朝早くから駆けつけた多くの方々も感動をもらっている様子でした。

そして次は小学校1、2年の低学年による900m走。彼ら彼女らはもう、最初からやる気満々、目を光らせながら走ることも競うことも応援されることもすべてを楽しみまくって、銀座の街を意気揚々と駆け抜けて行きました。途中で疲れた児童はその気持ちを隠さずに表情に出します。するとその横にはサポートするゲストランナーがいたり、自宅で作ってきた旗を振りながら応援するお父さんやお母さんがいたり。その沢山のエールをもらって、再び元気が蘇ってはゴールを目指す姿がとても印象的なランでした。

最後は学校の代表格でもある小学校5、6年による高学年。すでに身長が170cmを超える少年もいたり、大島めぐみさんが「去年から素晴らしい走りをする児童もいて、彼女が今年どう成長しているか、楽しみなんです」と目を細める児童もいたり、個々のセンスや才能の片鱗が見え始める世代ならではの走りが随所で見られました。所謂反抗期なのでしょうか？スタートする前はやる気のない素振り、友達をからかう素振りを見せたりする児童もいましたが、走り始めるとそういう児童こそが、一番ひとむきに前を向いて走る、その姿に本当の感動を貰うことも多く、この泰明マラソンが彼ら彼女らにわたるものの大きさを教えてもらった気がしました。

銀座の街にそろそろ人手が出てきた午前10時過ぎ、今年の泰明マラソン大会は終わりました。

校内を走るミニ東京マラソンで「走る喜び、それを支える誇り、そして応援する楽しみ」を身体で会得し、銀座の街を走り抜ける泰明マラソン大会で「走らせて貰う喜び、それを支えて貰う誇り、そして応援して貰う楽しみ」を心で感じ取った多くの児童は、走り合うことがなんなのか？という一番大切なことを掴んだことと思います。その姿はとても勇ましくも愛らしかったです。



※各プロジェクトの内容は、自然災害や主催団体の活動停止、不測の事態等により変更されることがありますのでご了承ください。

2019年度 「東京マラソン2019」におけるみなさまからの寄付金によって実施する事業です。

スポーツレガシー事業-1 スポーツを軸とした新しいライフスタイルを享受できる社会の実現と継承



ダイヤモンドアスリートプログラム (2015年度～)
公益財団法人日本陸上競技連盟

世界を舞台にリーダーシップを発揮し、子どもたちの憧れとなるようなスター選手
の育成をサポートします。

EXCEEDチャレンジプログラム (2018年度～)
一般社団法人日本実業団陸上競技連合

世界的な競技会で活躍できるマラソンランナーの育成・強化をサポート
します。



ランニングコース整備 (2016年度～)

ランナーが気軽にランニングを楽しみ、仲間とともに継続できる環境の整備をサポートします。



キッズアスレティックス × 東京マラソンスタイル (2016年度～)
日本キッズアスレティックス協会(一般社団法人キッズアスレティックス・ジャパン)

子どもたちのスポーツ基礎力を高めるとともに、陸上競技への関心が高まるよう
サポートします。

車いす陸上チャレンジサポート (2016年度～)
一般財団法人東京マラソン財団

車いす陸上体験教室に参加した方が、実際に競技を続けられるよう
にサポートします。



キッズ&ファミリンピック(車いすスポーツ交流イベント) (2018年度～)
公益社団法人東京都障害者スポーツ協会

車いすスポーツの体験・交流イベントを通して、
障害者スポーツへの参加者を増やすと共に理解・共感を深めることをサポートします。

スポーツレガシー事業-2 被災地の小学生を対象にしたスポーツ活動による復興支援



キッズアスレティックス×とうほくキャラバン (2018年度～)
日本キッズアスレティックス協会(一般社団法人キッズアスレティックス・ジャパン)

9月中旬に、岩手県、宮城県、福島県の小学校の9校にて実施予定。あわせて、現地にて指導スタッフ育成研修会も実施予定。

スポーツレガシー事業-3 被災地の育英事業



被災地の育英事業

いわての学び希望基金、東日本大震災みやぎこども育英募金、東日本大震災ふくしまこども寄附金へ分配。

※各プロジェクトの内容は、自然災害や主催団体の活動停止、不測の事態等により変更されることがありますのでご了承ください。

2020年度 2019年7月2日(火)に募集を開始する「東京マラソン2020」におけるみなさまからの寄付金によって実施する事業です。

「東京マラソン2020チャリティ」での東京マラソン財団「スポーツレガシー事業」が実施する寄付先事業は以下の2事業となります。
ご支援よろしくお願いたします。

スポーツレガシー事業-1

スポーツを軸とした新しいライフスタイルを享受できる社会の実現と継承

- ダイヤモンドアスリートプログラム ● EXCEEDチャレンジプログラム
- ランニングコース整備
- キッズアスレティックス×東京マラソンスタイル ● キッズアスレティックス×とうほくキャラバン
- バラ陸上チャレンジサポート ● ミニ東京マラソン
- キッズ&ファミリンピック(車いすスポーツ交流イベント)

スポーツレガシー事業-2

- 被災地の育英事業
(いわての学び希望基金、
東日本大震災みやぎこども育英募金、
東日本大震災ふくしまこども寄附金へ
分配)

寄付者プログラム

スポーツレガシー事業に寄付をいただいた方には、右記のような寄付者プログラムをご案内しました。
2019年5月までの実績をご紹介します。

2019年度にも開催予定ですので、スポーツレガシー事業に関する意見交換や交流の機会としても
積極的にご参加ください。

- ランニングクリニック無料招待
- 寄付金事業の視察・招待
- 関連イベント(陸上競技大会等)無料招待

寄付や事業についての詳細・お問い合わせはこちらから

SPORTS LEGACY

TOKYO MARATHON FOUNDATION

スポーツレガシー事業公式ウェブサイト
<https://www.sportslegacy.jp>



CHARITY
TOKYO MARATHON 2020

東京マラソン2020チャリティ公式ウェブサイト
<https://www.marathon.tokyo/charity/>



発行：一般財団法人東京マラソン財団

チャリティお問い合わせ事務局 E-mail : info_charity@tokyo42195.org / Tel : 03-4330-8801 / 受付時間:10:00～17:00(土日、祝日、年末年始を除く)